

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回茨木市高齢者施策推進分科会
開催日時	令和5年2月24日（金曜日）午後2時から午後3時30分
開催場所	Web会議
議長	本多委員（会長）
出席者	本多委員、中島委員、永田委員、住友委員、坂口委員 中尾委員、池浦委員、藤田委員、長尾委員、北川委員
欠席者	綾部委員、阪本委員、西山委員
事務局職員	森岡福祉部長、小西健康医療部長 澤田福祉部次長兼福祉総合相談課長 竹下健康医療部次長兼長寿介護課長、肥塚地域福祉課長 石井福祉指導監査課長、西浦長寿介護課管理係長 湊長寿介護課職員、祖田長寿介護課職員
議題(案件)	①アンケート調査の進捗について ②地域密着型サービスの整備状況について ③次期計画（令和6年から令和8年度）策定について ④その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 配席表 ・ 資料1 アンケート調査の進捗について ・ 資料2 第8期地域密着型サービス整備状況について ・ 資料3 次期計画（令和6年度から令和8年度）策定について ・ 資料4 審議会委員一覧

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
司会（湊）	令和4年度第3回茨木市高齢者施策推進分科会を開催いたします。 それでは、会議の議事進行は会長が行うこととなっておりますので、本多会長よろしくお願ひいたします。
本多会長	それでは、会議を始めたいと思います。委員の皆様におかれましては、高齢者福祉の増進のために積極的な御意見を賜りますように、よろしくお願ひいたします。なお、この分科会の会議なんですけれども、原則公開ということになっておりますので、御了解のほどよろしくお願ひいたします。 初めに本日の委員の出席状況につきまして、事務局から御報告のほうお願ひします。
司会（湊）	本日の委員の出席状況につきまして、御報告いたします。 委員総数13人のうち、出席は10人。欠席は3人で半数以上の出席がありますので、総合保健福祉審議会規則第8条第2項により、会議は成立しております。また、本日は2人の方が傍聴されていることを報告いたします。
本多会長	それでは、議事に移りますが会議の進め方について、お諮りしたいと思ひます。それぞれの議題について、事務局のほうから御説明を受け、その内容について順次御意見とか御質問いただくという形でよろしいでしょうか。なお、各委員の皆様からいただいた事前質問については、そのたびに事務局のほうから説明に含めて回答していただくことになっております。よろしいでしょうか。
各委員	(異議なしの声) 特に御意見なければ。 では、その形で進めさせていただきます。 それでは、議題1のアンケート調査の進捗についてを事務局からお願ひいたします。
西浦係長	長寿介護課の西浦と申します。 説明させていただく前に、資料に誤りがありましたので、お詫びさ

せていただき訂正させていただきます。

正誤表を見ていただきまして、在宅介護実態調査につきまして、46ページ問3、「年齢について」というところが、「お住まいの町名について」という題名に変わります。次、51ページ問10、Hの「夜間対応型訪問介護の1週間当たりの利用回数」とあるのが、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用の有無」。56ページ、「主な介護者を含め家族の何人で見ていますか」とありますが、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が特に不安に感じている介護等について、ご回答ください」に修正をお願いします。続きまして、介護保険事業者調査につきましては、72ページ問4、「サービス提供に対する自己評価について全体的にサービスは利用者のニーズに応じて、提供されていると思いますか」とありますが、「貴法人独自で介護保険サービス以外の事業を実施していますか」。74ページ、「貴法人の運営やサービスの向上のために、どのような情報や支援が必要ですか」とあるのが、「医療機関との連携について、法人として取り組んでいることがありますか」。90ページ問15、「利用者に対する虐待の発生を防ぐための対策がなされていますか」を「利用者の人権や虐待防止に関する研修を年に一度以上実施していますか」に修正をお願いいたします。

改めまして、資料1アンケート調査の進捗についてを説明させていただきます。1ページを御覧ください。

本アンケートは、介護保険法で市町村は日常生活圏域ごとにおける、被保険者の心身の状況、その置かれている環境、その他の事情を正確に把握した上で、これらの事情を勘案して市町村介護保険事業計画を作成するよう務めることとされています。アンケートの実施に当たり、国からは、各アンケートの質問について、実施の際には、必ず調査してほしいとする必須項目と可能であれば調査してほしいとするオプション項目が提示されています。

本市では、アンケートの必須項目をベースとして、必要に応じてオプション項目を追加し、また、市の施策検討のために市独自の質問を加え、アンケート調査を行いました。なお、アンケート調査の実績については、令和5年度保険者機能強化推進交付金の指標とされており、アンケート結果の施策への反映につきましては、アンケート結果の推移を基に、地域の要支援者、総合事業対象者、一般高齢者の地域課題を把握することで、地域課題の経年変化を捉え新規事業や現行事業の指標として、データを活用しております。

住友委員から御質問がありましたアンケート結果を活用した事例を紹介させていただきます。

包括支援体制の推進に関しまして、アンケートを実施したところ、一つの窓口で何でも相談したい。相談窓口にアクセスしやすい。専門的知識を持った相談員に相談をしたい。出産・子育てに関して、相談できる人が身近にいてほしいなどの意見があったことから、市内14エリアに地域包括センターと、CSWの整備を行うと同時に、市内5圏域に地区保健福祉センターの整備を進めております。また、令和3年4月に東保険福祉センターを、令和4年4月、南及び西圏域に保健福祉センターを整備しております。令和5年4月に中央保健福祉センターが開設される予定となっております。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、説明させていただきます。介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の目的は、要介護状態となる前の高齢者について、要介護状態となるリスクの発生や要介護状態となるリスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、地域課題を特定することです。調査対象者は、要介護認定を受けていない高齢者及び要支援認定者で、抽出方法は日常生活圏域ごとの特性を把握するため、日常生活圏域につきましては、5圏域を14エリアに細分化し抽出しました。対象者の性別につきましては、男女が対一となるようにしました。

年齢区分につきましては、65歳から5歳刻みの8区分とし、各区分から市人口構成割合に合わせて、層化無作為抽出方法で偏りが無いよう抽出しました。抽出数は合計3,000人です。実施方法は郵送で配付し、郵送とオンラインで回収しました。回答率は、76.1%です。今回の調査から、オンライン回答を取り入れ、オンライン回答は、3.7%でした。実施期間は、令和4年11月28日から、12月20日です。

アンケート項目は、国から提示されている基本項目が42。オプション項目が8。市独自項目が48の合計98項目となっております。市独自の項目としましては、介護予防、聴こえ、高齢者の社会参加、ACPに関する項目を追加しております。

アンケートの結果について紹介します。10ページを御覧ください。問1、あなたのご家族や生活についてです。問1のQ6、経済的な余裕についての項目です。物価高騰など様々な要因が考えられますが、大変苦しいと答えた方が5.7%。やや苦しいが21.7%という結果となっております。

続いて13ページを御覧ください。問2、からだを動かすことについてです。問2のQ11、外出は控えていますかについては、はいと答えた外出が減っている方が33.3%でした。その次の11-1、はいと答えた方に理由を尋ねたところ、コロナ感染の不安があるため

が一番多くなっており、75.8%と一番多くなっております。

次、問3、食べることについてです。17ページを御覧ください。問3、Q6、1日の食事回数。Q7、食生活改善の意欲に関する項目を新しく追加しました。Q6では、1日3回食事を摂られている方が、88.0%でした。Q7、食生活を改善してみようと思いませんかでは、改善に取り組んでいる方が38.6%。選択肢1、2を足した合計になります。

問4、毎日の生活についてです。21ページを御覧ください。問4、Q11、日常生活での困りごとでは、選択肢8、家具などの重い物の移動と答えた方が24.0%。選択肢7、電球の取替えと答えた方が、11.9%となっております。

28ページを御覧ください。問6、たすけあいについてです。問6、Q6、近所の人にできる手助けでは選択肢10、安否確認と声掛けが40.3%と一番多く、選択肢8、家具などの移動。選択肢7、電球の取替えなども一定の割合で回答がありました。

問7、健康についてです。31ページを御覧ください。問7、Q2、現在の幸福度についての項目です。5点以上をつけて回答された方は、全体の94%となっております。

33ページを御覧ください。今回の調査では、Q8、耳の聞こえの状態。Q8-1、補聴器を使用しています。Q8-2、補聴器を持っていない理由と聞こえに関する項目を追加しています。

39ページを御覧ください。問9、人生の最期についてです。問9のQ1からQ6までを新しく追加した項目となっております。そこで、Q2、人生の最期について家族と話し合ったことがあるかでは、詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している。詳しく話し合っているが、意思表示の書面を作成していない。話し合ったことがあると回答された方が、50.1%となっております。

問10、自然災害の備えについてです。42ページを御覧ください。Q1からQ3-1について、新たに追加した項目となっております。問10、Q1、自宅周りの避難所を把握していますかについては、避難所を把握していると答えた方が、79.6%となっております。

問11、高齢者施策全般についてです。43ページを御覧ください。Q1、茨木市はどのような施策に重点を置くべきかでは、生活支援や介護予防サービスの充実が52.4%。医療に関することが50.7%。介護に関することが44.3%となっております。

1ページに戻っていただきまして、在宅介護実態調査について、御報告させていただきます。在宅介護実態調査の目的は、「高齢者等の

適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」に有効なサービス利用のあり方やサービス整備の方向性を検討することです。対象者は、在宅介護サービス受給者で、抽出方法は介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と同一の方法で行っております。抽出数は、2,000人です。実施方法は、郵送で配付し、郵送とオンラインでの回答と認定調査員による聞き取り調査を行いました。回答率は、64.5%で、オンライン回答は、3.3%でした。実施期間は、令和4年11月28日から12月20日です。アンケート項目につきましては、国から提示されている基本調査項目が15、市独自項目が9の合計24項目となっております。市独自の項目としましては、在宅介護者の実態、介護離職に関する項目に追加しております。

そこで、57ページを御覧ください。B票、主な介護者についてです。問6、介護者が感じる自身の不安についてです。肉体的に、いつまで介護を続けることができるか分からないと回答された方が62.5%と一番多く、次いで精神的な理由が50.6%となっております。

そこで、58ページ。問8、介護者の勤務形態についてです。働いていないと回答された方が50.3%でした。

59ページ。問11では、問8で働いていないと回答された方に理由を尋ねています。介護のために離職された方が15.8%。介護のために就職できなかったが5.9%となっております。大学、高校などに通学しながら介護を行っているという方は、回答からは確認できていません。

再度1ページに戻っていただき、介護保険事業者調査です。介護保険事業者調査の目的につきましては、介護保険サービス等の参入意向や介護事業者の雇用実態などを把握し、介護人材の確保・定着に向けた支援施策を検討することです。調査対象者は、市内で介護サービスを提供している187法人の事業者へ配布し、104事業者から回答がありました。回答率は、55.3%です。実施方法は、郵送で配布し、回答は郵送とオンラインで回収しました。オンライン回答は17.1%です。アンケート項目は20項目で、全て市独自の項目となっております。今回の調査では、利用者の虐待防止対策、ICTの導入・整備に関する項目を追加しています。各項目の結果は、資料に記載しているとおりとなっております。

議題1についての説明は以上です。

資料1について、説明が終わりました。ただいまの説明について、御意見や御質問をお受けしたいと思うのですが、調査が3つございま

本多会長

すので、まず一つずつお聞きしていったほうが分かりやすいかなと思うのですがよろしいでしょうか。調査をまたいでの御質問もあるかと思しますので、その場合は、どちらかの調査に絡める形で聞いていただければと思います。

それでは、まず、最初に御説明いただきました、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、御意見とか御質問ございませんでしょうか。こちら、回収率が今回も前回もかなり高くなっていて、こういう地域の方に御協力いただくのってなかなか回収とか、あと有効回答率を高めていくのが大変というのはよく聞くんですけど、茨木市として回収率を高めるために工夫されていることはございますか。

住友委員から、御質問の手が挙がっております。

住友委員

2つばかりございまして、1つは、地域別の結果をされてらっしゃいますかねということが一点と。それから、2つ目に65歳以上80代まで含めて一括して、解析されてらっしゃるんですけども、やっぱり70代ぐらいを境にして、生活のいわゆる不便さというのは、だいぶ特段に変わってくる人が多いと思うんですね。

ということで、65歳か例えば70の前半、70の後半以降とか、大きく2つのグループに分けた、その結果が必要じゃないかと思えますけどもというような意見です。

本多会長

地域別の分析の結果はということと年齢別ですね。いわゆる75歳辺りで2つに分けてというような御提案・御意見をいただきました。

事務局のほうから御解答お願いできますでしょうか。

西浦係長

委員からご質問のあった地域別、年齢別に関しましては、クロス集計を行い、分析してまいります。

本多会長

年齢別、地域別ということで、細かく見ていただけるということでしょうか。

西浦係長

はい、クロス集計を行います。

本多会長

今、御提案いただいた細かい分野につきましても、またクロス集計をかけて、今後分析をかけていただけるということなので、結果のほうどんなものが出るか非常に楽しみですけれども。ありがとうございます。

ほかに、御意見とか御質問とかございませんでしょうか。今、こう

いうふうに見ていくともっと細かいことが分かるのではないかという
ような御提案をいただきましたけれども、皆様のほうで御覧になって
いて、ここどうなんだろうとかこの辺りはもう少し深く知ってみたい
などかということがありましたら、お願いいたします。

坂口委員、何かお気づきの点とかありましたら、御意見ございませ
んでしょうか。

坂口委員

いろいろアンケートを取っていただいたんですけど、これの良し悪
しとかいう表現でおかしくんですけど、こういう結果に対して、今後こ
れを常にこういうことはやっているよ、例えばをちょっと出してみま
しょうか。外出を控えている理由というのがQ 1 1 - 1とあるんです
けども、そういった項目に対して、どういう対策を取るようになっている
のかな。すなわち、医療関係のこれに対して、何らかの回答を寄せて
いただいているのかと思って、非常に気になるんですけどね。数字
は出てきているんですが、それに対する対応・対策というのが、今ま
で既にやっている対策と今後それやらなくてはいけないという対策と
いうのが、どこの時点で作ってくるのでしょうかと思ひまして、非常に
立派なページなので、もったいないと思っているんですけども、外出
一つとっても、移動手段いろいろ工夫してはおるんですけど、それ
は、例えば、自動車自分で運転するということが33. 1%と出てるん
ですけども、これ自体はどういう意味合いを持っているのかというの
が、ちょっと分かりにくいんですけどね。全部を持ってではないんで
しょうけども、必要じゃないんでしょうけども、もろもろの例えば、
健康についてということについて、これはちょっと数字が出ています
ので、というようなことを少し数字と対策ということについての今後の
方向性をちょっとお聞きしたかったんですけども。

以上です。

本多会長

出た数字に対して、今既にされている施策。それから、これの数字
を見て今後していくべき施策とかの検討、評価についての御質問かと
思いますが、事務局から御解答お願いします。数字がばあっと出てま
すが、上がってきているか下がってきているかということも非常に気にな
るところですね。何か対策をされて、だんだんよいほうの数字にな
ってきているのかっていうことの評価にもなるかと思うんですが。

坂口委員

先ほど会長がおっしゃったように、前回との差異というのが非常に
何かをやったから差が出たのかとかですね。そういう再分析をしてい
ただければ、そのアクションとつながるようにしようと思ひますと、

	<p>再分析も必要じゃないかなと思いましたが、納得納得ということで、会長のお話納得したわけなんですけども。</p>
本多会長	<p>事務局のほうから回答いただきたいと思います。</p>
西浦係長	<p>ここにお示しさせていただいた数字というのは、調査をしたばかりで、単純集計を行ったものになります。今後、調査結果を分析・評価し、来年度に向けて取り組んでいきたいと思います。ご質問に関しましては、次回以降の分科会にてお示しをさせていただきます。</p>
本多会長	<p>次回以降ということですので、またこれもどのような感じの結果なのか非常に楽しみです。</p> <p>皆様のほうも、この今の御報告いただいた結果で、このところ特に最近の変化を見たいとかあれば。</p> <p>長尾委員、よろしく願いいたします。</p>
長尾委員	<p>事業者の回答が50%とというのが少し気になっています。事業者であれば、できれば、80、90、100%近く回答がほしいと。督促というか回答を得るといのは無理なんですか。</p>
本多会長	<p>介護保険事業者調査の回答率がちょっと低いんじゃないかと。確かに、前回と比較すると、前回74.4%が今回55.3%になっています。本当ですね。この辺りは、なぜかということと何か対策はないかということですね。</p> <p>事務局から回答お願いいたします。</p>
西浦係長	<p>今回55.3%となりまして、ケア倶楽部という事業所向けに発信するツールでの周知や、督促を行ったのですが、回答が得られなかったのは少し残念です。アンケートのお送り先というのが法人、その事業をやられているところではなくて、事業をやられている法人に送ったというところもありまして、そこで、なかなか事業所にそこからおろしていただくということが難しかったのかなというところがありますので、今後事業をやられているところに出せるように工夫等してまいりたいと思います。</p>
本多会長	<p>前回は、各事業所のほうに送られてたんでしょうか。</p>

西浦係長	<p>前回も法人には、送付しておりますが、その法人に対するアプローチをしていたかは不明です。今回はできていませんでしたので、回答率が下がった可能性があります。</p>
本多会長	<p>長尾委員いかがでしょうか。御発言お願いいたします。</p>
長尾委員	<p>事業所にやはり送っていただきたいですし、事業所で回答できないものは、法人に相談して回答されると思います。できるだけ、事業所の生の声を聞いていただきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
本多会長	<p>中尾委員からも続けて手を挙げていただいております。つなげますね。御発言お願いいたします。</p>
中尾委員	<p>事業所連絡会の中尾です。ケア倶楽部で発信をしていただいております。本当にこのケア倶楽部の発信非常にありがたいと思っております。ただ、見ている事業所と見ていない事業所、またなかなか回答の得られない事業所もあるので、できれば委員会、役委員、本当に事務局のほうから毎回来ていただいているんで、そういうところでもう少し声を高らかに全員にお願い等をしてもらい、また、各委員会の部分で声を出していただいたら、もっと徹底するのではないかなと感じると今回のアンケート調査の回答率を見て、感じるころがあります。また、私のほうから今回の調査のパーセントも全員に周知徹底していかんかなあかんというのが今回感じるころです。</p>
本多会長	<p>事務局のほうからお願いいたします。</p>
西浦係長	<p>次回のアンケート調査の際には、役員会に出席させていただいて、アンケート調査等やらせていただいている旨、回答期限等も含めまして、お伝えさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
本多会長	<p>中尾委員、長尾委員この件につきまして、回答いただきました。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>ほかに御意見・御質問とかないでしょうか。今事業所調査についてもいただきました。あと、在宅介護実態調査等々ほかの調査について全体を見てなどありましたら、せっかくですので次こういうふうな解析をとか、この結果とか評価を知りたいというようなものとかも、ぜ</p>

	<p>ひぜひございましたら。</p> <p>藤田委員よろしく申し上げます。</p>
藤田委員	<p>外出の件についてなんですけども、細かいことになるんですが市のほうから、タクシー券をいただけるというふうに聞いております。ただ、私の義理の母親が体悪くなって、一人では外出、タクシーに乗ることもできないんですね。そのときに、付き添いがいたらそのタクシー券は使えないみたいな話を聞いたんですけども、その辺りはどうなんですかね。その辺りがないと、高齢で不自由な方なんかは外出できないんじゃないかと思うんですが、ちょっと教えてください。</p>
本多会長	<p>最初の外出についてということで、例えばということで、タクシーの利用等々、市の制度はどうなっているんだろうというちょっと細かなところですが、どなたか回答。お願いいたします。</p>
西浦係長	<p>担当に確認をしてまいりたいと思いますので、後ほど御回答させていただきます。</p> <p>先ほど、本多会長から今回のアンケート調査につきまして、何か回答率を上げるために工夫したことはあるのかという御質問いただいたことについて、回答させていただきます。今回の調査から、オンライン回答を取り入れています。しかし、先ほど御紹介させていただいたとおり、オンライン回答での回答率が、それほど高くなかったというところで、質問項目がちょっと多すぎたのかなと。それと、オンラインという環境に慣れておられない方にとっては、回答自体も難しかったのかなというところがありますので、次回以降もオンライン回答は便利な方法であるため、もう少し使い勝手がいいように改善させていただきます。</p>
本多会長	<p>藤田委員、今確認に行ってもらっておりますので、少しお待ちください。具体的なことを一つ一つの積み上げることが非常に大切なのかなと、私個人的にも思っております。</p> <p>それでは調査について御質問とかございませんでしょうか。</p> <p>坂口委員お願いいたします。</p>
坂口委員	<p>33ページですが、難聴の問題ですけども、我々家族の会、認知症の人と関係を持つ我々としましてはね、難聴とかいうことで非常に認知症への引き金になっているということは、最近よく言われるようになってきました。それについて、ここに書いてありますように、聞こえにくいという人がやっぱり、普通の人が77.6%この数字はどう</p>

読んだらいいか分からないんですけど、これは決していい数字ではないと、14%近くの方がやっぱり聞こえにくいということを言っています。それから、補聴器を使用していますかというたら、持っているが使用していない、持っていない、無回答ということもありまして、持っていないという方がかなりおるんですよ。こういうことに対するしっかりした医療的な関係、難聴と認知症ということをもう少し研究して、こういったことに対しての対策として、補聴器をどうするのか、補聴器は付けたらいいのかどうか。答えも出ていないんですけど、そういうことについて、やっぱりせっかくこの数字が出てきておりますので、そこら辺を非常に私の今、関心で、難聴と認知症という関係なんですけども、それを少し深く掘り下げてほしいと思いましたので、意見申しました。

以上です。

本多会長

難聴と認知症という関係は、近年すごく言われているようになりました。私の専門の看護領域でも非常に今取り組んでいるところです。ありがとうございます。

補聴器のという耳の聞こえもですが、付け足すならQ8のこの補聴器は高いから買えないというふうな回答も22.0%ございます。高いか低いかの評価も必要なところかと思いますが、この耳の聞こえを聞いたもの、認知症のことも勘案してどのように御活用になっていくのかということですよ。そういうことも含めまして、事務局のほうから御回答お願いいたします。

西浦係長

他市等の取組等を参考にしながら、御意見のほうまた検討させていただきたいと思っておりますので、ありがとうございます。

本多会長

各市の取組等も確認して、これから検討されていくということですが、坂口委員からございますでしょうか。

坂口委員

検討していただければ結構です。

本多会長

ほかに御意見等はございますでしょうか。

先ほどの藤田委員のこと分かりましたでしょうか。分かったみたいなので、回答いただきます。

竹下課長

先ほど藤田委員のほうからの御質問のタクシーの利用料金の助成の件なんですけど、介護者いるいないには関係なくて要介護1から5の判

	<p>定の方で、市民税非課税の方、また、生活保護受給ということになっております。ですので、タクシー乗られるときに付き添いの方が同乗されても、対象の方が要件に該当される場合は、タクシー券出しておりますので、それを利用して外出をされている使い方となっております。</p>
本多会長	<p>藤田委員いかがでしょうか。お願いいたします。</p>
藤田委員	<p>使う側がちょっとその辺りよく理解してなかったみたいで、そういう点も周知していただけたらというふうに思います。</p>
本多会長	<p>周知徹底の仕方も含めて御意見かと思えます。 それでは、ほかに御意見等ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。</p> <p>では、資料1の議題につきましては、皆さんから御意見をたくさんいただいたのかなと思います。また、今回皆さんからいただいた御意見は、次回に御報告いただけるということなので楽しみにしていきたいと思います。</p> <p>では、続きまして議題2の地域密着型サービスの整備状況について、事務局からお願いします。</p>
西浦係長	<p>資料2について、御説明させていただきます。</p> <p>92ページを御覧ください。地域密着型サービスは、認知症、高齢者、要介護度の高い高齢者になっても、できる限り住み慣れた地域で生活できることを目的に創設されたサービスですので、地域の特性を生かし、地域の実情に即したサービスを提供するため、事業所の指定や監督は市町村が行っております。また、サービスを利用できる人は、茨木市民に限られております。</p> <p>第8期地域密着型サービスの整備状況については、資料2では、サービスの種類、第7期までの整備数及び第8期の整備計画について、お示ししております。令和3年度整備予定は、小規模多機能型居宅介護が1か所。認知症対応共同生活介護（以下、グループホームと言わせていただきます）を2か所。地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（以下、小規模特養と言わせていただきます）を2か所としておりました。</p> <p>右の表を御覧ください。整備が完了しておりますのは、北圏域の小規模特養。西圏域、南圏域のグループホームです。南圏域の小規模多機能型居宅介護と小規模特養につきましては、令和3年度に整備が進</p>

まなかつたため、令和4年度に引き続き公募をしております。

令和4年度の整備状況につきましては、東圏域に小規模多機能型居宅介護とグループホームを1か所。南圏域に小規模多機能型居宅介護と小規模特養を各1か所整備する予定としており、6月と12月に説明会を実施しました。また、公募につきましては、圏域を指定せず事業者が競合した場合に、計画上で整備を予定している圏域を優先する旨を伝え、公募を行いました。

公募の結果、東圏域にグループホームと小規模特養。西圏域に小規模多機能型居宅介護の整備を予定する事業者からの公募があり、現在事業者と整備計画について、調整を行っております。また、令和4年度に整備が進まなかった小規模多機能型居宅介護については、令和5年度に繰り越して整備を進めていきたいと考えております。

資料2の説明は以上です。

本多会長

資料2について、説明が終わりました。ただいまの説明について、御意見・御質問とかがございましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。第8期の地域密着型サービスの整備の状況ということで、このあとまた整備がさらに進んでいくという報告でしたけれど、皆様のお住まいの地域、それから近くの地域などなども含めまして、気になる点とか御要望、その他、もろもろ質問がありましたらお願いいたします。

私からよろしいですか、東のところで、令和4年度の整備計画が令和5年度に繰り越しというふうに、何ていうんですかこれ、吹き出しマークについておりますけども、説明に補足とかがもしありましたら、繰り越しの理由とか補足説明とかがありましたら、お聞かせ願えますでしょうか。

西浦係長

小規模多機能型居宅介護につきましては、整備をしていただける事業者が少ないということもありまして、整備にいたらなかったというところがあります。次年度以降、小規模多機能型居宅介護につきましては、事業者が現れましたら整備をお願いいたします。また、小規模多機能型居宅介護につきましては、国からも、整備を進めるということが言われておりますので、今後もしできる限り整備計画の中に入れて進めていきたいと考えております。

本多会長

皆様方からは、坂口委員何かございますでしょうか。お願いいたします。

坂口委員

単純な質問ですみません。整備計画というのは、整備という意味合

いをもう少しはっきりしてほしいんですけども、何をどうするから整備になるのか。辞めるところもあるから、辞めたいというところは辞めさせるのか、やりたいというところをどういうふうにして、勧誘するのかどうか、よう分からないんですけどね。結果は1つ2つ増えたとおっしゃいますけども、そのところを非常に単純な質問で申し訳ございません。整備とは何ぞやという。

本多会長

事務局からよろしく願いいたします。

西浦係長

整備というのは、新しく造っていただくところを増やしていくという意味合いです。需要と供給のバランスの中で、施設に入りたいと思われている方が、年々増えておりますので、そういう方の要望に即した形で、できる限り施設の数を増やしていきたいと考えております。

坂口委員

充足度っていうのがあるわけですね。地域によって、すなわち、必要とする人とそれを提供するところのギャップがあって、そういうのに関しての整備計画ということと考えていいわけですね。

本多会長

事務局からお願いします。充足度等々を計算してといたしますか、勘案して、数というんですかね。そこを決めているとかということですね。

西浦係長

圏域単位での高齢化率等を見ながら、その圏域に即した数というのを考えて、整備計画に上げていただきたいと思います。

坂口委員

そのときのあるべき数というのは一応は、出されているということですね。あるべき数というのは、どういう形で出すかということもありますけども、それによって、不足しているとか。私もね、小規模多機能については、すごく魅力があると思うんですけどね、ほかのサービスをどうこうというわけじゃないんですけども、小規模多機能こそ思っておるんですけどもね。認知症とか、高齢者にとっての憩いの場所として私ね。ですから、非常に気になることなんです。小規模多機能。

本多会長

最終的な着地点的な数とかですかね。例えば、何年後にどこどこには、何施設とかというのを人口の動態を計算した上で、きちっとした計画が何かあるのかというふうなことですかね、坂口さん。

坂口委員	<p>そうですね。ただ漫然と計画するというか、合計数やと思うんですけどもね。</p>
本多会長	<p>長い目で長期的な計画で、施設のこの辺の数、種類ごとに決めておられるのかという質問ですが、事務局からお願いします。</p>
西浦係長	<p>施設の整備数につきましては、介護保険計画の中の3年間の中で、高齢化率であるとか、どれぐらいサービスの利用者数の伸び率等を勘案しまして、次期計画の中で何件くらい必要かということを検討し、整備数に加えてまいります。</p>
本多会長	<p>坂口さん御意見ございますでしょうか。</p>
坂口委員	<p>あまり欲は言いませんけれども、そういう形でやっぱりできるだけ、利用者が満足できる数というのが必要と思いますので、提供する数はやっぱり非常に大切なことなんやろうという気がしますので、よろしくお願いします。</p>
本多会長	<p>そうですね。次のところで、令和8年度までの次期計画等々の説明もありますので、またそこにもちょっとつながってくるのかなというふうに考えます。長期的な視野が大切なんだと思います。</p> <p>ほかに皆様から、御質問・御意見はございませんか。</p> <p>それでは、資料2についての説明は終わり、次に議題3の次期計画に向けてのスケジュールについてを事務局からお願いします。</p>
西浦係長	<p>資料3を御覧ください。93ページになります。よろしいでしょうか。</p> <p>次期計画に向けたスケジュールについて、説明させていただきます。次期計画につきましては、現計画の期間に記載しておりますとおり、令和5年度に、高齢者保健福祉計画（第9次）・介護保険事業計画第8期及び、その上位計画であります、総合保健福祉計画（第2次）につきまして、最終年度となっております。</p> <p>そこで、次期計画策定に向けては、計画に関連する各分野における制度改正の動向のほか、国や府の方針と調和を保ちつつ、令和4年度に市民や介護保険事業所を対象に実施したアンケート調査結果の分析などを参考に本分科会での検討を重ね、令和6年2月上旬をめどに最終計画案を取りまとめます。</p> <p>茨木市高齢者保健福祉計画（第10次）・介護保険事業計画（第9</p>

期)の策定に向けたスケジュールを御覧ください。第8期から第9期までのスケジュールを記載しております。点線で囲った令和5年度を御覧ください。令和4年11月から12月にかけて、アンケート調査を実施しました。現在は、回収した調査票を集計、調査結果やサービス、給付実績等进行分析・考察し、計画に盛り込む内容を検討していきます。

8月にサービス見込み量の設定作業を行い、11月に大阪府との調整を得て、計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

茨木市総合保健福祉計画(第3次)策定に向けたスケジュール案を御覧ください。94ページになります。令和5年度は、計画策定年度となるため、本分科会では5回の開催を予定しております。委員の皆様には、何かと御負担をおかけすることになりますが、御協力のほどよろしくお願いいたします。

資料3の説明は、以上になります。

本多会長

資料3の説明が終わりました。ただいまの説明について、御意見とか御質問ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。今後の計画ということですが。

皆様のほうから、質問等々ありませんでしょうか。今後の計画についてになります。先ほどの、今日の議題の一番目のアンケートの結果、それから地域密着型サービスの整備状況についてという、これに今後関わってくるのかなとも思いますけれど。特にございませんでしょうか。

藤田委員よろしくお願いいたします。

藤田委員

今後の計画に関わって、ここの具体的な議案とは、ちょっと違うかとは思いますが、高齢者福祉施策に当たっては、もう少し私の気づいている点言いますとね、広報いばらきでもう少し、シニア向けの高齢者向けの特集なりを組んでいただいたらどうかなと思っています。今日も届いていましたけども、最近トップページの記事が若い人向けの内容が、すごく多いんじゃないかと。調べてみたら、ゆるりのんびり自転車散歩。それから、キャンプで過ごす家族時間、次なる茨木へもっと。画面もきれいで、若い人にしっかり見てほしいという意味で作っておられるのはよく分かるんですけども、シニア向けとしては、歴史に関するものが2回ほど載っているというぐらいで、もう少し例えば、9月の敬老の日に関わって、シニア向けの情報みたいなものを載せていただいたらというふうに思っています。私、茨木シニアカレッジに今関わっております。今日出てきたような外出を控えてい

るということについて、面白そうなことがないからとか、そういう理由もあったかと思えます。食事についてなんかもカレッジのほうでは、いこいこ未来塾で食に関する講座も組んでいます。それから、簡単な運動についての講座があります。遺言であるとか遺産相続に関する講座もあります。

そういう講座があるんだということを広く、茨木市民のシニアの皆さんに知っていただきたい。いこいこ未来塾に参加することで、年に20回ぐらいは、外出することになるんですね。今、閉校式をしております、受講者の方から言葉をいただきますと、やっぱりここに来るようになって、外出の機会が増えたとか、友達ができたとか、生きがいが生まれたとか言ってくさっています。茨木シニアカレッジ、いこいこ未来塾というのは、他市にはないよい事業です。高槻で今年からスタートしたようですけども、あれはまだ一クラスだけで、茨木市のほうは5コースありまして、今回135名募集しました。12月に広く市民に知っていただくようにということで、福祉文化会館のほうで特別講座も開いたんですけども、新しい方が半分50.3%入ってくださることになりました。

ただ、やっぱりまだ知られていません。それ何、茨木シニアカレッジ聞いたことないと。茨木市の補助金もいただいて運営しております。1回の講座が本当に500円、600円で聞けるという受講料ですので、ぜひ広く市民の皆さんに知っていただいて、活用いただきたい。どんどん外出をすることで、健康な生活を送っていただきたいというふうに思っております。ですから、ぜひ広報のほうでも、先ほど言いましたように、シニア向けの特集記事なんかも組んでいただけたらと思えます。

それから、地域のほうの活動では、老人クラブの方ともシニアネットワーク茨木ということで、会を持ちまして情報交流しております。その中で聞いたのが、ある地域で老人クラブで、LINEの講習会をして、会員の皆さんと連絡を取り合って、LINEは既読というのが出ますので、それによって安否確認もできているんだとつながりも濃くなっているというような取組も聞きました。そんなふうに元気に活動している団体を紹介するとか、そういう記事もいいんじゃないかと。アンケートにもありましたけども、何か興味を引くものがあれば、地域活動にも参加する意思があるというパーセンテージも結構高かったと思えます。だから、こういう活動があるんですよとか、こんなことしたらどうですかという紹介をするっていうのが、介護予防にもつながることではないかというふうに思っています。

本多会長

介護予防外出促進の観点からシニア向けの広報活動の今後のあり方について、御意見いただきました。老人クラブでLINEで既読とかもあるんですね。すごいなるほどと思いました。

事務局のほうから今の御意見について、回答というのもあれですけどもございますか。

肥塚課長

地域福祉課の肥塚です。

御意見藤田委員たくさんいろいろと御提案いただき、ありがとうございます。おっしゃるとおりに老人クラブでのLINEの活用ですとか、いつもやっていただいていますシニアカレッジのいろんな講座というのは、すごくたくさんの知っておられる方にとっては、とても魅力的な活動だと思っております。私も、大変興味深くいつも見ております。ですので、そういう方でもまだ、一部の方しか知られていないということですので、広報誌に載ったらもっとたくさん知っていただいて、もっと気軽に活動していただけるのではないかっていうおっしゃるそのとおりでございます。紙面には限りがありまして、ちょっと若い方向けの特集っていうのが最近、広報を読んでもくださるのが、どちらかというと、中・高齢年層が高いので、若い人にも広報を読んでほしいというところからの若い方向けの魅力の発信というところを推していったのではないかなと思うんですけども、高齢者の方にもそういうふうな広報を見て特集を見て、ますます魅力を知っていただければいいかなと思いますので、また、広報誌担当しているまち魅力発信課のほうとも調整をいたしまして、できるだけ特集かなえるように働きかけしていきたいと思っております。

シニアカレッジの宣伝などというか周知などにつきましては、毎年必ず応募期間の前に、少し特集ではありませんけれど、中身のほうで大きめの囲み記事にしまして、御案内はさせていただいているところですので、そこは引き続きずっと大きく御案内できるようにやっていきたいと思っております。御意見ありがとうございます。

本多会長

広報のあり方について御意見いただきました。市民委員の北川委員から広報誌とか何か御覧になっていて、御意見とかございますか。

北川委員

広報誌のほうは、見せていただいてまして、私自身今お話聞くまでは、そういうことに気がつかなかったんですけども、言われてみたら確かに最近の特集というか、初めのページは割とそういう若い方向けっていうのが多かったなど、改めてそう言われてみればと気がついたところなんですけども。

ただ、うちの同居してます夫の母なんですけども、今年92歳ですけども、やっぱりもうほとんど外に出ることはないんですけども、広報が届くとまめにこうしてよく見てますし、その中で自分の何か関係するものがあると、こういうものが載ってたというふうに話もしてくれますので、今のお話伺って、やはりそういうちょっと高齢の方向けの特集っていうのはいいなというふうに感じました。また、よろしくお願ひいたします。

本多会長

北川委員から御意見をいただきましたが、藤田委員何かございますか。

藤田委員

ぜひ、どこかの場面で活躍する高齢者や、ごみ拾いをしていらっしゃる方、コミデイなどの、高齢者向けの特集記事もぜひ載せていただきたいというふうに思います。

本多会長

ほかに御意見とかございませんでしょうか。中尾委員お願ひします。

中尾委員

資料1の介護人材の部分に非常に興味を持ったんですけども、我々の事業所連絡会でも、やはり人材というところで非常に、どの事業所も人材不足で困っております。その中で、やはりこのコロナの3年間でベテラン、中堅的な職員が辞める率が非常に多くなってきてます。うちの施設でも20年近く勤めてくれた職員も今回3月末で辞めていくんですけども、その理由としては、このコロナの中で、今までボランティアさんとか各フロア、各事業所での催し、また、自分たちが計画をした中で、実行できていたという部分が今回のコロナで全然できない。このままで、3年を過ごしてしまったので、これでいいんだろうかという一つの壁にぶち当たってしまって、この介護福祉の業界から違う業界に行きたいというようなことを言って、辞めていくこともあるんです。その人材の年齢的なのをどこで務めているかというよりも、人材育成、人材をどのように確保できるかというところを私ら事業所連絡会のほうでは、その茨木市の人材の調査の部分でもちょっと知りたいなという感じもいたしますので、各事業所での職員の数を調べられるのも大事かもしれないんですけども、これからのコロナが落ち着いてからどのように、また模様が変わってくるのかという部分も調査していただき、またこれから高齢の方がどのようなサービスを望んでおられるかということも、知ってニーズに応えられるような施設造りを事業所連絡会のほうでも進めていきたいなと思っておりますので、またそういう調査があれば、教えていただきたい

	<p>なと思います。</p>
本多会長	<p>事務局のほうからございますか。</p>
西浦係長	<p>担当に伝えさせていただきまして、そういう調査等がありましたら高齢者事業者連絡会等で御報告させていただきたいと思います。</p>
本多会長	<p>今後につながる貴重な御意見ありがとうございます。確かに、コロナ後ということで、これから変わってくる場所も多々あるかと思えますけれども、そこもしっかりと評価していかないといけないのだろうと今のお話を伺っていて思いました。ありがとうございます。また、次のところに反映していただけるということなので、貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>それでは、そのほかに御意見・御質問とかございませんでしょうか。</p> <p>坂口委員お願いいたします。</p>
坂口委員	<p>36ページの認知症についてという項目があるんですけども、いろいろの本人の希望、期待する項目とか、家族が期待する項目とかあるんですけど、当然だと思いますけど。相当これは、細分されてあると思うんですけど、その希望がですね。ですから、これについて、先ほど言いましたように、市はどこまでやっているのかということと、その結果どういうまたギャップがあるのかとかですね。</p> <p>そして、今後どこまでそれを訴えていっていただけるのか。これは結構ね、周知をしていかないといけないところが先ほども今話ありましたように、利用できるサービスに関する説明がね欲しいと言っているのは、サービスをやっているというけど、サービスについての説明してくれということとは分からない、知らないということだと思うんですけど、それをどういうふうな形で知らしめていくのかとかいうことも含めると、現在やっているけども知らないという人に対して、どのような形でそれを知らしめて、そこに利用してもらうような施策になるのかなと思って、非常に興味もあるし心配もしているんですけども。</p>
本多会長	<p>先ほどの御意見もそうですけれども、せつかくの調査結果を今後どう活かすか。今までのこと、これからのことというので、長期的に数字をしっかりと追いかけて評価していくということですね。それに関して、この認知症の取組。それから、先ほど御意見いただきました広</p>

<p>澤田課長</p> <p>本多会長</p> <p>坂口委員</p>	<p>報ですよね。広報に関してもどうやってリンクして、今後につながっていくのかというような計画を立てて、評価してさらに発展させていただくというふうな御意見でよろしいでしょうか。</p> <p>事務局からお願いいたします。</p> <p>福祉総合相談課の澤田と申します。</p> <p>認知症の件、委員がおっしゃられるとおり、周知というところが一番大事だというふうに担当課も認識しております。その中で、地域包括支援センターさんを中心に、現在いろんなところで啓発を図りながら地区保健福祉センターなども利用しまして、認知症というのは早めに治療すれば怖い病気ではない、少しでも時間を取れるんだということをいろいろとお話をしながら、周知をしていっております。この件につきましては、今後の計画の中にも数字的なものであるとかそういったものを載せていきながら、しっかり取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>坂口委員よろしいでしょうか。</p> <p>分かりました。期待しております。</p>
<p>本多会長</p> <p>司会（湊）</p>	<p>それでは、説明3の資料3のほうはこれで終了といたしまして、議題4のその他について、事務局からお願いいたします。</p> <p>議題4「その他」について、案件はございません。</p> <p>本日の会議録につきましては、事務局で会議録案を作成し後日委員の皆様にお送りさせていただきますので、御確認いただきますようお願いいたします。</p> <p>次回の分科会の開催についてですが、令和5年5月頃を予定しております。また、改めて御案内させていただきます。</p> <p>最期に、茨木市総合保健福祉審議会の開催について、地域福祉課の肥塚から説明いたします。</p>
<p>肥塚課長</p>	<p>総合保健福祉審議会の開催につきまして、お伝えをさせていただきます。現行の総合保健福祉計画（第2次）は御存じのとおり令和5年度末で計画の期間が満了となり、来年度は総合保健福祉計画（第3次）の策定の年度に当たります。</p> <p>来年度の各分科会での計画策定作業を進めていくに当たりまして、</p>

	<p>この3月28日火曜日の午後2時から、審議会を開催することを予定しております。総合保健福祉審議会の委員は、全員で47名おられます。10名から13名ずつを各分科会の委員に指名し、分科会ごとに御審議をいただいているところです。審議会の開催につきましては、全員の47名の方を集まっていたのではなく、会長があらかじめ、各分科会から6名ずつを指名招集し、計24名で実施するというようにしております。</p> <p>資料ちょっと小さいですが、中央、審議会という欄にマルがついている委員が会長から審議会への参加を指名されている委員となります。</p> <p>高齢者施策分科会からは、本多分科会長、阪本委員、住友委員、坂口委員、中尾委員、そして池浦委員の6人の方々が審議会への参加を指名されている委員です。指名されている委員の皆様には、改めまして、後日審議会の開催の通知をお送りさせていただきますので、お忙しいところ恐縮ではございますが、御参集くださいますようお願いいたします。なお、審議会に参加されない委員につきましても、内容共有のために議事録とともに資料をお送りさせていただきますので、どうぞよろしくようお願いいたします。</p>
本多会長	<p>ただいまの御報告、御説明について、御意見とか御質問ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。</p> <p>それでは以上をもちまして、本日の議題は全て終了いたしました。長時間にわたり、ありがとうございました。また、最初音声が飛んでしまったりして、申し訳ございませんでした。私も慣れないZOOMでの会議で、ちよつともたもとと変なマルとかバツとかをしてしまいましたけれども、御容赦くださいませ。ありがとうございました。</p>
司会（湊）	<p>では、これもちまして、第3回茨木市高齢者施策推進分科会を終了いたします。</p> <p>皆様ありがとうございました。</p>